神奈川県立
精神医療センターNEWS
No.28
2025年2月発行

作　長谷川幹人

令和6年度大規模地震時医療活動訓練について

令和６年９月28日（土）、内閣府主催の令和６年度大規模地震時医療活動訓練に47名が参加しました。同訓練は、首都直下地震（県内最大震度６強想定）により甚大な被害が神奈川県（横浜川崎エリアを中心）に発生したという想定で実施されました。当センターは、被災した病院からの患者を一時的に受け入れる災害拠点精神科病院としての役割を果たしました。

訓練では、当センター内に災害対策本部を立ち上げ、副院長を本部長とし、支援チームとして神奈川県・和歌山県・大阪府・愛知県のＤＰＡＴ（災害派遣精神医療チーム）も参集しました。

同訓練は、令和元年度にも行っていますが、今年度は患者一時集積場所を体育館として行いました。

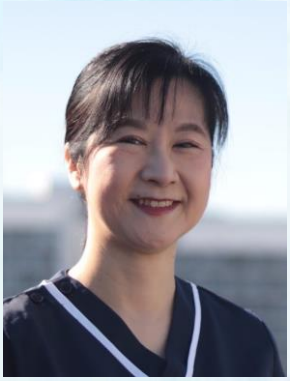
また、当センターのスタッフで模擬患者役を立てて、実際にトリアージを行うなど、本格的な実動訓練となりました。

令和６年元旦にありました能登半島地震などといったように、昨今大きな規模の地震が発生しており、次いつ大きな地震が起きてもおかしくない中、来る災害に備えとても有意義な機会となりました。

Contents

●看護局長あいさつ
●一日看護体験
●令和６年度依存症家族セミナー
●令和６年度ゲーム依存症家族セミナー

看護局長あいさつ



精神科専門病院と聞くと、実際にはどんな医療が行われているのだろう、看護師の仕事はどのような業務なのだろう、と思われる方も多いかもしれません。
精神医療センターでは、専門的な知識や技術を活用しながら、患者さんの権利を大切にして、その人らしく自律していけるような支援を心掛けています。そのためには、看護師が自分自身を大切にすると同時に、自律した個人であることが重要だと考えます。

看護局ではさまざまな研修などを通して、精神科疾患による生きづらさを抱えた患者さんに寄り添って、あたたかな看護が提供できるように取り組んでいます。
また地域の医療機関や訪問看護ステーションなどとも、連携がさらに充実できるよう努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

神奈川県立精神医療センター
副院長兼看護局長　萩原　綾子

一日看護体験

今年も一日看護体験を実施しました。看護に関心が高い神奈川県内の高校生11名が、病院見学や看護体験、看護師との懇親会に参加されました。活発で柔和な雰囲気の中、会はすすみ、「普段入れないエリアに入れた」「病院の特色を知ることができた」と医療現場を体感しました。

懇親会では「精神看護の魅力を知ることができた」「改めて看護師になろうと思った」など、前向きで力強い言葉をいただき、関係者一同温かい気持ちになりました。
これからも精神看護の奥深さややりがいを伝え、次世代に繋げていきたいと考えています。

家族から始まる回復の連鎖

～依存症家族セミナーと思春期ゲーム行動症家族セミナーを開催して～

依存症当事者の家族は、しばしば当事者を責めたり、無理やり乱用をやめさせようとしたり、尻拭いしたりすることに必死になり、当事者の依存症に巻き込まれていきます。しかし、このような関わりの多くは当事者の依存症的な行動を悪化させ、いつしか家族の心身の健康まで害していくのです。このため、家族が当事者と健全な関係を再構築し自身の健康を取り戻すことは依存症治療に重要です。依存症診療科ではコロナ禍前に開催していた依存症家族教室を「依存症家族セミナー」「思春期ゲーム行動症家族セミナー」と改め、令和５年度から再開し、今年で２年目を迎えました。今回、令和６年度に実施したそれぞれの家族セミナーについてご紹介します。

令和６年１０月２３日、思春期ゲーム行動症家族セミナーを開催し、１６人の家族が参加しました。グループワークでは困っていることやうまくいかなかった関わり方、効果的だった関わり方などを共有し、医師から「今日から楽しく関われるシリーズ、ゲームを通して知る子どもの世界」という題材で子どもがゲームにはまる背景や家族としての関わり方を講義しました。グループワークの時間を通して日ごろなかなか人に言えない悩みや不安、体験談を共有していただくとともに今後の関わりのヒントが得られる機会となりました。

令和６年１１月１４日には依存症家族セミナーを開催し、アルコール・薬物・ギャンブルなど依存症当事者の家族２５人が参加しました。家族自身が恥ずかしさや自責感から感情に蓋をして援助を求めないことの多い病気ですが、医師から「『助けて』が言える家族を目指そう～家族から広がる回復の連鎖～」を題材に家族が正直に話せる場所をもつこと、心身の健康を取り戻すことが当事者の回復にも連鎖し得ることを講義し、精神保健福祉士からの地域資源を紹介、そしてグループワークで家族同士が日ごろの苦労や自分の気持ちを語り合いました。家族自身が１人ではないと感じ、仲間とともに回復することが、当事者をも巻き込む回復の連鎖となるのです。

センターニュースでは、みなさんのご意見を随時募集しています。
取り上げてほしいテーマや、ご要望等がある方は、下記メールアドレスまでご連絡ください。
神奈川県立精神医療センター　総務課　soumu.1517@kanagawa-pho.jp

地方独立行政法人神奈川県立病院機構
神奈川県立精神医療センター
〒233－0006　横浜市港南区芹が谷２－５－１
TEL 045-822-0241(代) FAX 045-822-0242
https://seishin.kanagawa-pho.jp